

## スクリーン基礎知識.2 取付方法

スクリーンの取付には、大きく分けて次の5つの場合があります。

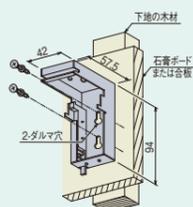
①壁面、②天井、③ボックス内、④たれ壁、⑤裏たれ壁

また、それぞれ取付面の状況により、さまざまな工夫が必要です。

いずれにしろ取付に際しては十分な強度を確保する必要があります。

### ① 壁付け

1. 壁面に十分な補強材が入っている場合は、直付けします。



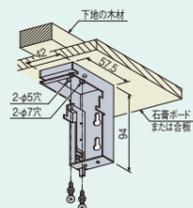
※図はEH、E1、A1用ブラケット

2. アルミ天板(A-T)を利用し、壁面のLGSまたはパーティション見切り、間柱などに合わせ、天板を取り付け、その上にスクリーンを取り付けます。

3. コンクリート壁の場合は、壁面にアンカーを打ち全ネジボルトにスクリーンを直接取り付けます。

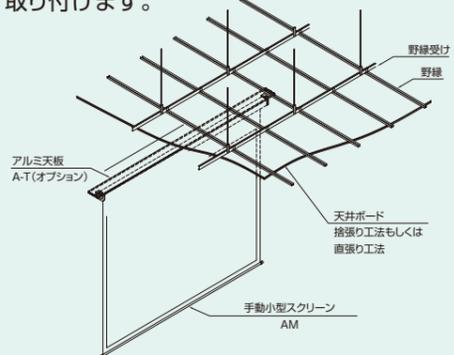
### ② 天付け

1. 天井面に十分な補強材が入っている場合は、直付けします。



※図はEH、E1、A1用ブラケット

2. アルミ天板(A-T)を使用:野縁(のぶち)材などに天板を固定。その天板にスクリーンを取り付けます。



3. 天井に強度が無い場合には、スラブにアンカーを打ち、全ネジボルトを使用し、スクリーンを直接取り付けます。

4. ECなどの大型スクリーンは、ぶどう棚に設置をします。

### ③ ボックス内

ボックスを利用し、天井内にきれいに収めたり、カーテンボックスやバトンと同じボックス内に収めることにより、見た目にきれいな室内空間になります。



バトンやカーテンレールと一緒に設置することもできます。

アルミボックス(AL):天井面にスクリーンを隠したい場合などには、オプションのALできれいな処理ができます。スラブアンカーに吊ボルトを取り付け、吊ボルトでALを固定した後、ALにスクリーンを取り付けます。



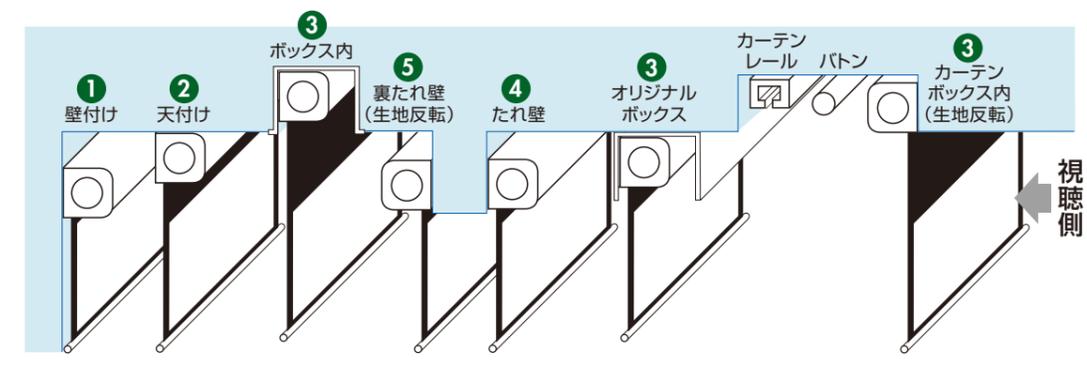
### ④ たれ壁

原則的に壁付けと同じですが、たれ壁自体の強度の確認が必要です。また、スクリーンの向きにより、生地反転(▶P.50)などの工夫が必要です。

### ⑤ 裏たれ壁

たれ壁と同様です。

### 取付イメージ図



手動スクリーンは特にハンドルを引く時に、瞬間的な強い力が加わることがあります。取り付け場所の強度には特にご注意ください。

### ● スライディングブラケット

オーエスの新型スクリーンおよびEH、E1、A1、EASTONE社E2S、スクリーン・リサーチにはスライディングブラケットが付属しています。本体ケースの任意の位置でスライド調整ができ、取り付けが簡単に行える機構です。



photo: EH、E1、A1

### ● マルチスタンド(三脚)を使って取り付ける場合

天井が高くポールが使えない場合、ポールに取り付けができない場合などには、マルチスタンド(▶P.91)をご利用ください。視聴場所がいつも異なる場合には、簡易設置型スクリーンと同じように、持ち運びスクリーンとしてもご利用いただけます。

※マルチスタンドをご使用の際は、床面が水平であることにご注意ください。スクリーンの種類によってはご使用になれない場合があります。

### ● エクステンションポールを使って取り付ける場合

スクリーンを取り付ける場所の工事ができない場合、あるいは天井、壁などに傷をつけたくない場合にはエクステンションポール(▶P.92)をご利用ください。

- エクステンションポールP1は、天井と床面をスプリングの力で突っ張り、スクリーン架台の役割をするものです。
- エクステンションポールとスクリーンは専用ブラケット(取付キット:P2-A)をお使いください。

※ポールをご使用の際は、天井・床面の強度にご注意ください。スクリーンの種類によってはご使用になれない場合があります。

